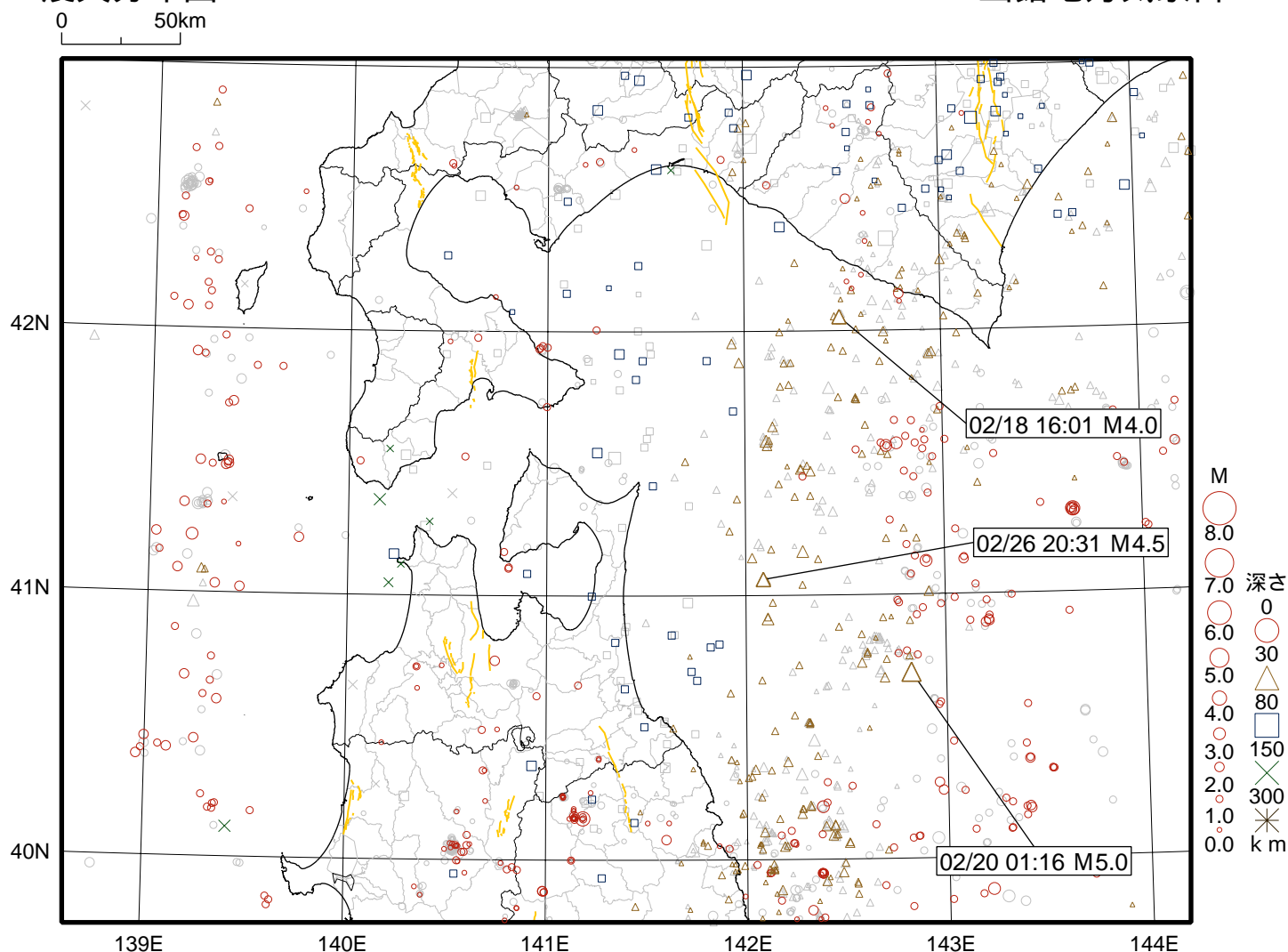


# 渡島・檜山地方の地震活動図

2021年2月1日～2021年2月28日

震央分布図

函館地方気象台



## 地震概況（2021年2月）

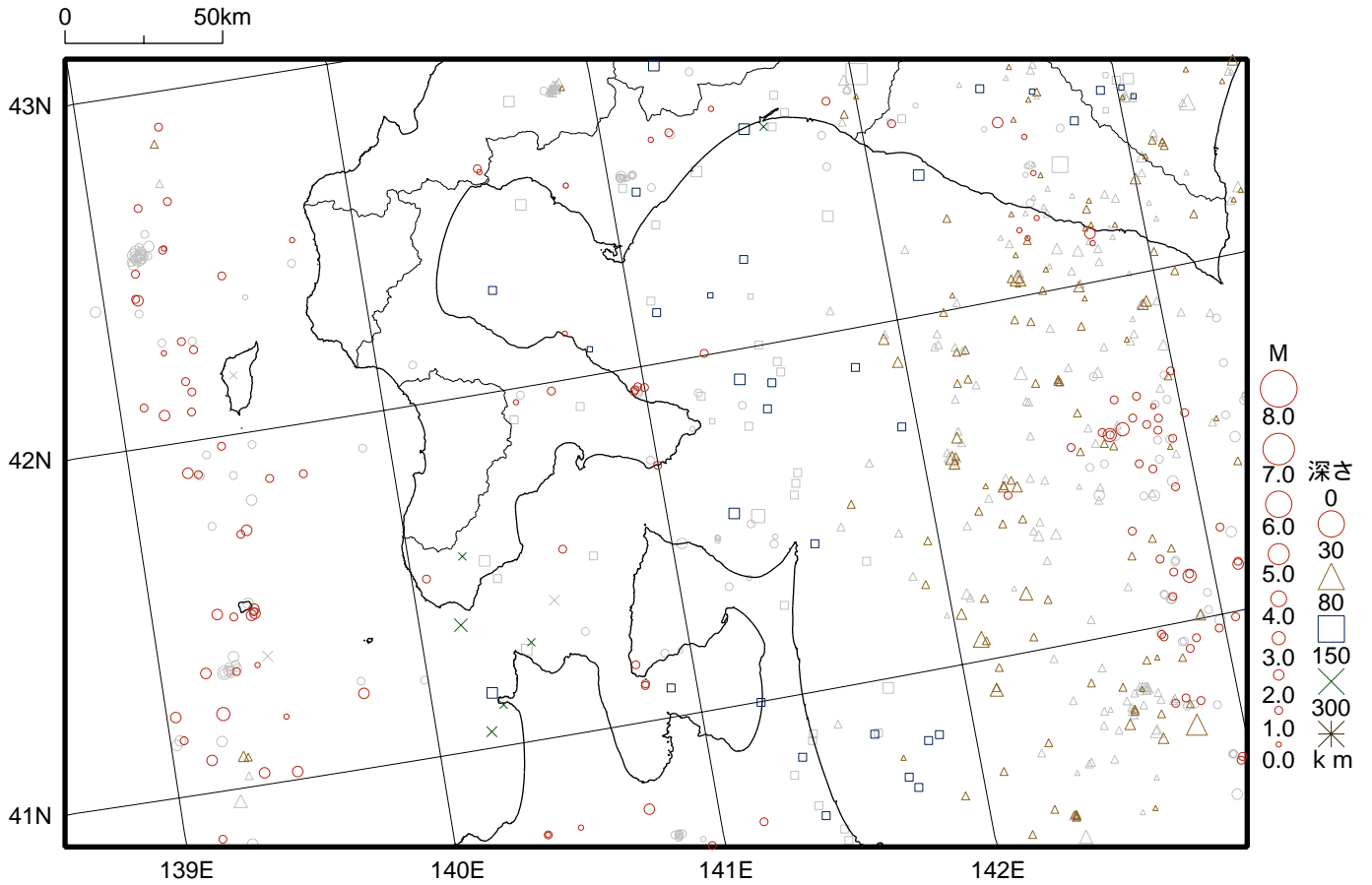
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は4回（1月は9回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

13日23時07分、福島県沖の地震（M7.3、深さ55km、震央分布図の範囲外）により、函館市大森町、函館市新浜町、函館市日ノ浜町、北斗市、知内町、木古内町で震度3を観測したほか、渡島・檜山地方で震度2～1を観測しました。

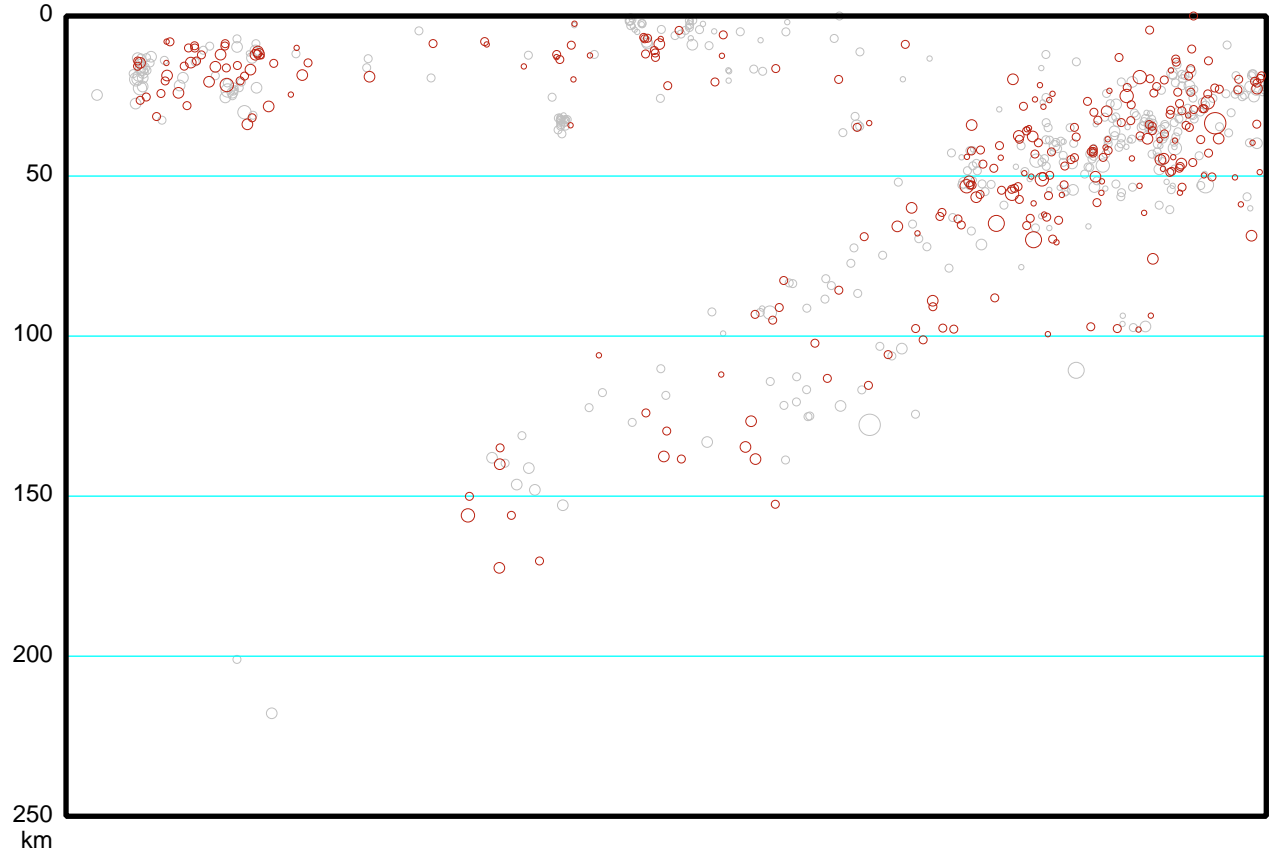
26日20時31分、青森県東方沖の地震（M4.5、深さ65km）により、函館市泊町で震度3を観測したほか、函館市、七飯町、福島町で震度2～1を観測しました。

2021年2月1日 ~ 2021年2月28日

震央分布図



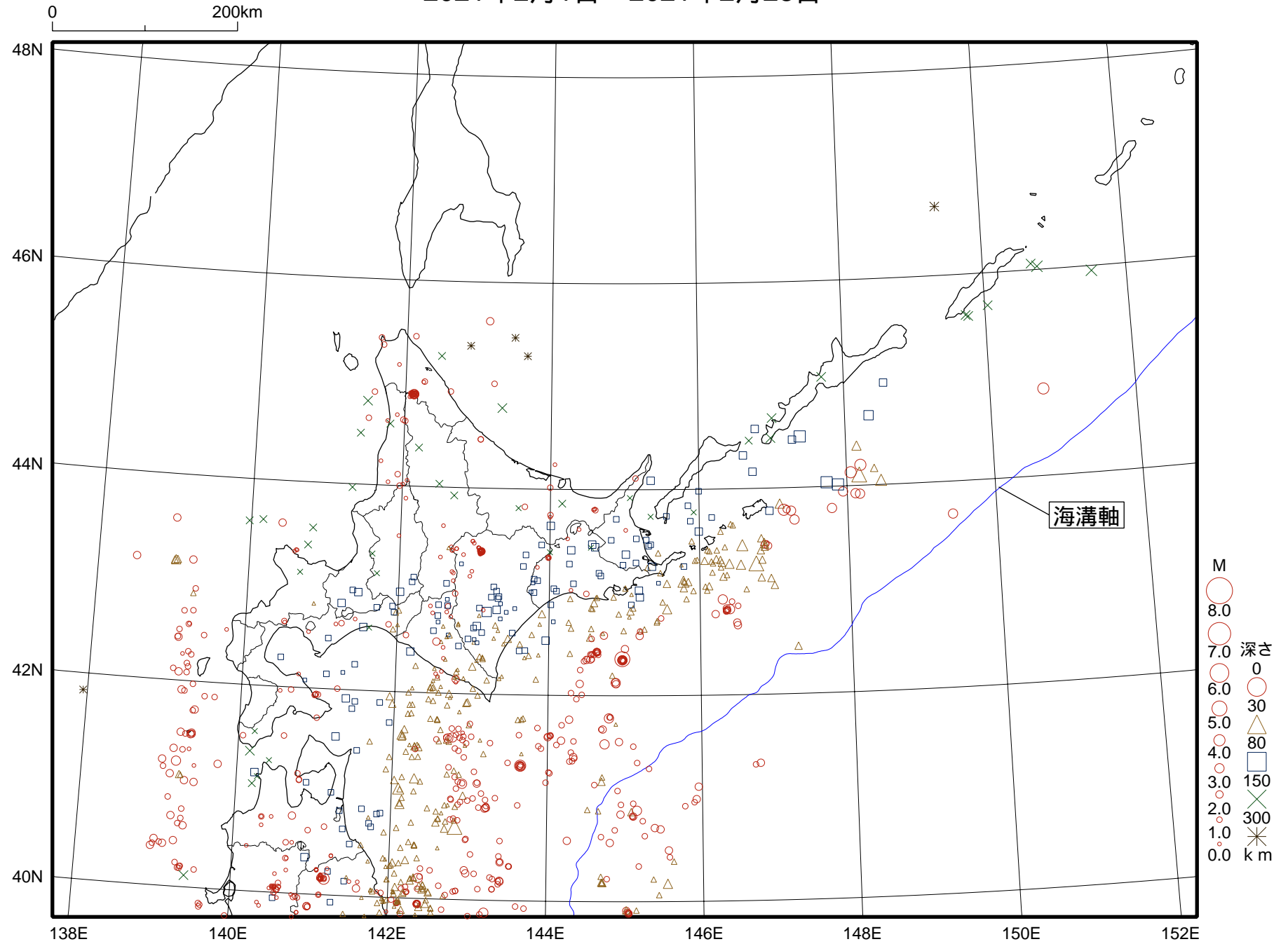
断面図



# 北海道の地震活動図

2021年2月1日 ~ 2021年2月28日

震央分布図



# 渡島・檜山地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2021年2月)

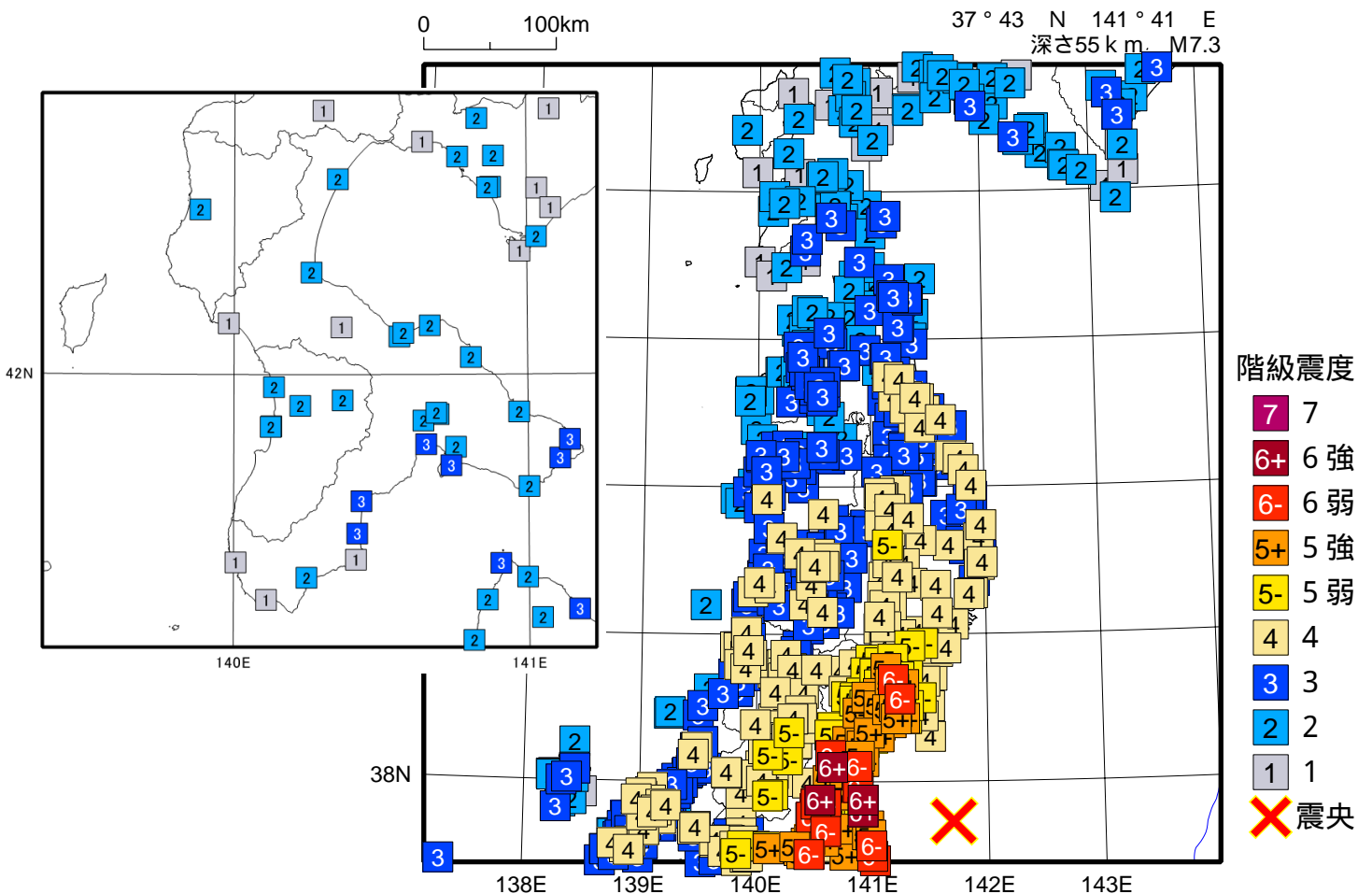
年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2021年 2月13日 渡島地方	23時07分 震度 3	福島県沖 函館市大森町 * (28) 函館市新浜町 * (31) 函館市日ノ浜町 * (26) 渡島北斗市中央 * (29) 知内町重内 * (25) 木古内町木古内 * (25)	37° 43.7 N	141° 41.9 E	55 km	M7.3
	震度 2	八雲町住初町 * (16) 長万部町平里 * (17) 函館市美原 (18) 函館市泊町 * (23) 函館市川汲町 * (15) 七飯町桜町 (18) 七飯町本町 * (16) 鹿部町宮浜 * (15) 渡島森町御幸町 (23) 渡島森町上台町 * (18) 渡島森町砂原 * (20)				
	震度 1	渡島北斗市本町 * (17) 福島町福島 * (17) 八雲町上の湯 (11) 八雲町熊石雲石町 * (10) 渡島松前町福山 (11) 渡島松前町清部 (07) 知内町小谷石 (13)				
檜山地方	震度 2	檜山江差町姥神 (17) 檜山江差町中歌町 * (16) 厚沢部町木間内 * (23) 厚沢部町新町 * (23) 乙部町緑町 * (18) せたな町北檜山区徳島 * (17)				
2021年 2月18日 渡島地方	16時01分 震度 1	浦河沖 函館市新浜町 * (08)	42° 03.1 N	142° 29.0 E	70 km	M4.0
2021年 2月20日 渡島地方	01時16分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (13) 函館市新浜町 * (14)	40° 42.3 N	142° 49.4 E	34 km	M5.0
2021年 2月26日 渡島地方	20時31分 震度 3 震度 2 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (29) 函館市新浜町 * (22) 函館市日ノ浜町 * (18) 函館市美原 (10) 函館市大森町 * (12) 函館市川汲町 * (11) 七飯町桜町 (09) 七飯町本町 * (10) 福島町福島 * (05)	41° 03.6 N	142° 05.2 E	65 km	M4.5

\* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。  
( ) 内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

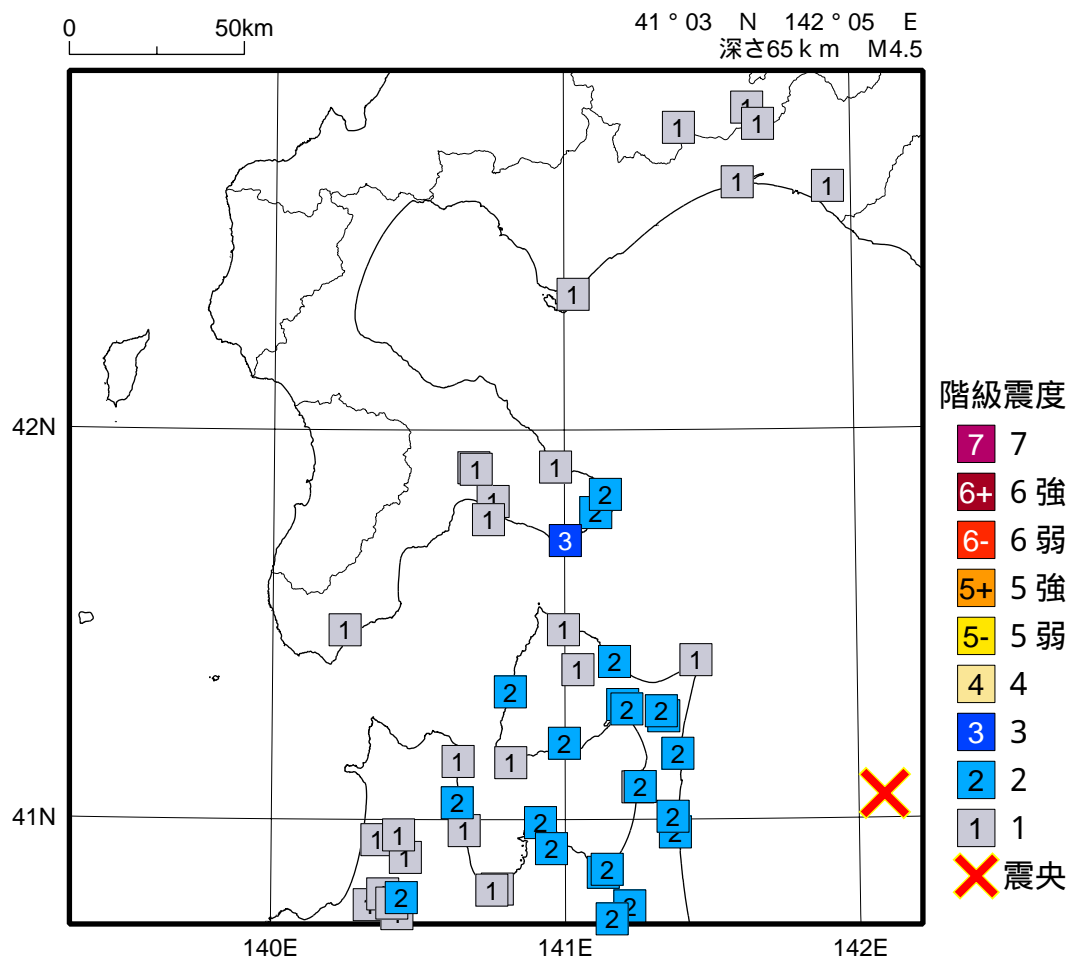
## 計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

2021年 2月13日23時07分 福島県沖の地震の震度分布図



## 2021年 2月26日20時31分 青森県東方沖の地震の震度分布図



### 本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 2020年4月18日から10月23日まで、及び2021年1月9日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以外の期間と比較して微小な地震の震源決定数の変化が見られることがあります。
- ・ 2020年9月以降の地震は、それ以前と比較して、処理方法の違い等により、震源の見かけ上の位置や震源決定数に変化が見られることがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

## 【防災メモ】

# ～東日本大震災から10年～

今年の3月11日で東日本大震災から10年が経ちます。平成23年（2011年）3月11日14時46分に三陸沖で、地震の規模（マグニチュード）が9.0である国内観測史上最大の超巨大地震が発生しました。宮城県栗原市で震度7を観測したほか、北海道から九州までの広い範囲で震度6強～1の揺れを観測しました（図1）。気象庁は、この地震の名称を「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と決めました。

この地震により発生した津波は日本沿岸各地で観測され（図2）、甚大な被害をもたらしました。犠牲者は19,729名（令和2年3月10日現在、総務省消防庁による）、死因のほとんどが津波に巻き込まれたことによる水死で、戦後最大の自然災害となりました。

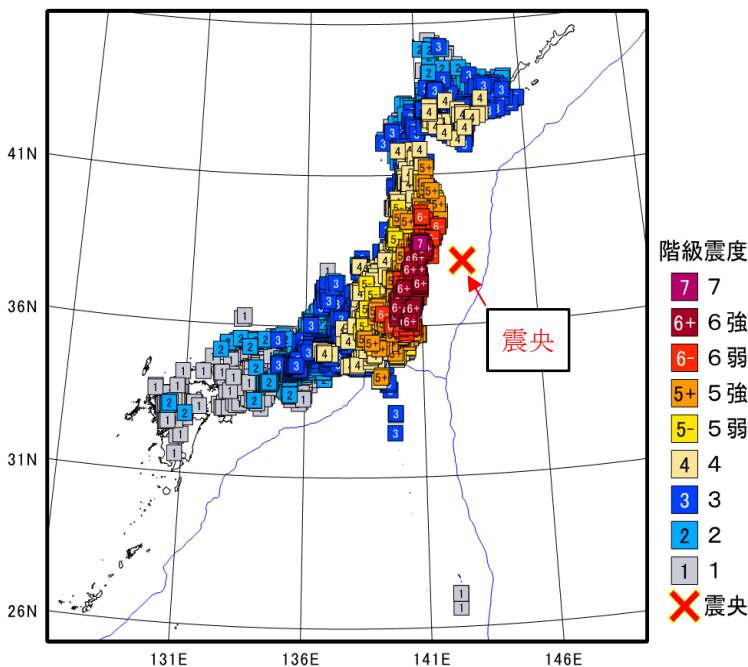


図1 震度分布図

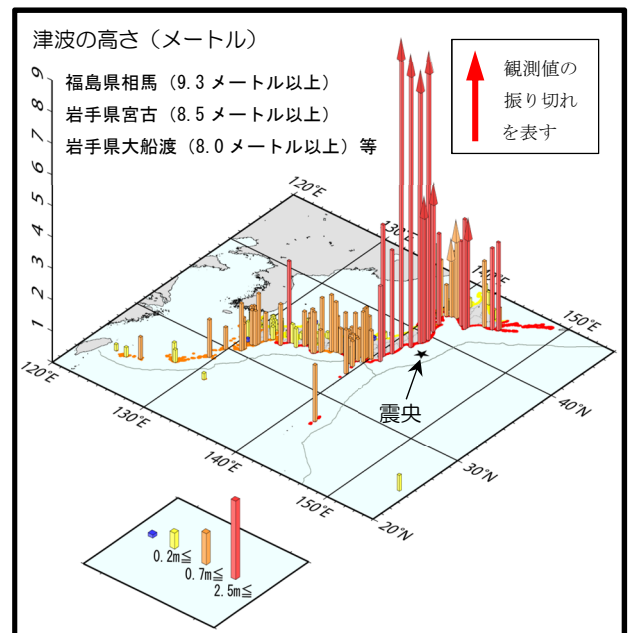


図2 日本沿岸で観測された津波の高さ

マグニチュード8を超えるような巨大地震に対しては、すぐには精度の良い地震の規模を求めることができません。このため、大津波警報や津波警報の第一報では、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表することで、非常事態であることをお知らせし、津波からの迅速な避難を呼びかけます（図3）。

津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲う恐れがあります。ただちにできる限り高いところへ避難しましょう。

種類	発表される津波の高さ	
	数値で発表する場合	巨大地震の場合
大津波警報	10m超	巨大
	10m	
	5m	
津波警報	3m	高い
津波注意報	1m	（表記しない）

図3 大津波警報・津波警報・津波注意報と予想される津波の高さ